

平安京右京三条四坊十三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京三条四坊十三町跡

2004年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都には数多くの有形無形の文化財が今も生きています。それら各々の歴史は長く多岐にわたり、京都の文化の重厚さを物語っています。こうした中、地中に埋もれた文化財（遺跡）は今は失われた京都の姿を浮かび上がらせてくれます。それは、平安京建設以来1200年以上にわたる都市の営みやその周りに広がる姿をも再現してくれます。一つ一つの発掘調査からわかってくる事実もさることながら、その積み重ねによってより広範囲な地域の動向も理解できることにつながります。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした成果を現地説明会や写真展、考古資料館での展示、ホームページでの情報発信などを通じて広く公開することで市民の皆様へ京都の歴史像をより実態的に理解していただけるよう取り組んでいます。また、小学校などでの地域学習への成果の活用も、遺物の展示や体験授業を通じて実施しています。今後、さらに埋蔵文化財の発掘調査成果の活用をはかっていきたいと願っています。

研究所では、平成13年度より一つ一つの発掘調査について報告書を発刊し、その成果を公開しています。調査面積が十数平方メートルから、数千平方メートルにおよぶ大規模調査までありますが、こうした報告書の積み重ねによって各地域の歴史がより広く深く理解できることとなります。

このたび道路改築工事に伴う平安京跡の発掘調査成果を報告いたします。本報告書の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾ではありますが、当調査に際して御協力と御支援をたまわりました多くの関係者各位に厚くお礼と感謝を申し上げます。

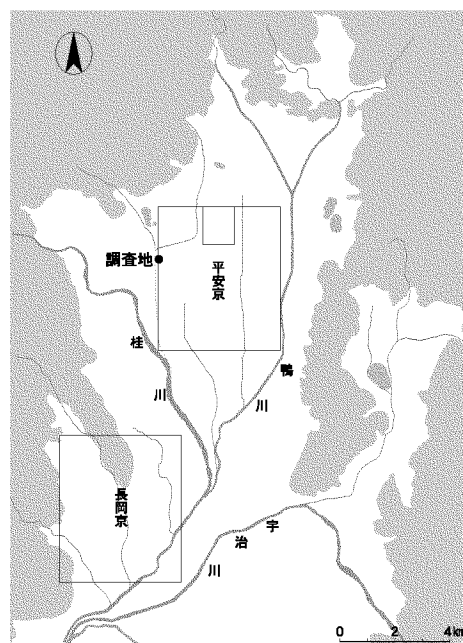
平成16年6月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京右京三条四坊十三町跡
- 2 調査所在地 京都市右京区山ノ内西八反田町
- 3 委 託 者 京都市 代表者 京都市長 榊本頼兼
- 4 調査期間 2004年1月22日～2004年5月7日
- 5 調査面積 約775m²
- 6 調査担当者 能芝 勉・モンペティ恭代
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 日本測地系（改正前）平面直角座標系（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用基準点 京都市が設置した京都市遺跡測量基準点（一級基準点）を使用した。
- 11 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 12 遺 構 番 号 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。
- 13 遺 物 番 号 土器類・瓦類・窯道具類・石製品・漆器に通し番号を付した。
- 14 掲載写真 村井伸也・幸明綾子
- 15 基準点測量 宮原健吾
- 16 遺物復元 村上 勉・出水みゆき
- 17 本書作成 能芝 勉・モンペティ恭代
- 18 編集・調整 児玉光世・清藤玲子



（調査地点図）

目 次

1 . 調査経過	1
2 . 周辺の調査	1
3 . 遺 構	4
(1) 1 区	4
(2) 2 区	9
4 . 遺 物	10
(1) 1 区	10
(2) 2 区	11
(3) 1・2区瓦溜	13
5 . ま と め	14

図 版 目 次

図版 1	遺構	1	1 区全景 (北から)
		2	1 区瓦窯 1 (西から)
図版 2	遺構	1	1 区建物 2 (北から)
		2	1 区溝 52 (北から)
		3	2 区全景 (北から)
図版 3	遺物	1・2 区	出土遺物
図版 4	遺物	1・2 区	瓦溜出土瓦類
図版 5	遺物	1・2 区	瓦溜出土瓦・窯道具類

挿 図 目 次

図 1	1 区調査前全景 (北東から)	1
図 2	調査位置図および周辺調査 (1 : 5,000)	2
図 3	1・2 区第 1 面遺構平面図 (1 : 200)	5
図 4	1・2 区第 2 面遺構平面図 (1 : 200)	6

図5	1・2区東壁断面図(1:100)	7
図6	1区平安時代前期遺構実測図(1:150)	8
図7	1区建物2実測図(1:100)	8
図8	1区瓦窯実測図(1:100)	9
図9	石器実測図(1:3)	11
図10	1区溝52出土土師器実測図(1:4)	11
図11	2区瓦溜21出土土器・漆器実測図(1:4)	11
図12	1・2区瓦溜出土瓦類実測図(1:4)	12
図13	1・2区瓦溜出土瓦・窯道具類実測図(1:4)	13
図14	平安時代前期遺構復元図(1:300)	15

表 目 次

表1	周辺の調査一覧表	3
表2	遺構概要表	4
表3	遺物概要表	10

平安京右京三条四坊十三町跡

1 . 調査経過

葛野大路道路改築事業に伴い、現在の三条通以北の京都市右京区山ノ内西八反田町において、発掘調査を実施した。葛野大路改築に伴う発掘調査は1988年から継続して行われており、今回の調査は12次にあたり、太子道以南では最後となる。

調査区は平安京右京三条四坊十三町、および三条大路、無差小路に該当し、『拾芥抄』右京図によれば、織部司の厨家である織部町にあたる。



図1 1区調査前全景（北東から）

今回の調査地に隣接する既調査では平安時代前期の建物跡、三条大路の路面・北側溝などを検出している。また、平安京以前の周辺遺跡として山ノ内遺跡や西ノ京遺跡があり、御池通以北の調査で弥生時代から古墳時代の遺物を検出し、三条通以南の調査では弥生時代の遺構と古墳時代の竪穴住居を検出している。本調査でも平安時代の遺構とともに、弥生時代、古墳時代の遺構の検出も期待した。

調査予定地域は宅地と耕作地が含まれており、また宅地解体工事と残土を場内処理する関係から1区、2区の調査区を設定した。1区の耕作地・宅地跡と、三条通に面して8次調査1区の西隣の宅地跡で実施したものである。1区は無差小路の一部、2区は三条大路の一部が含まれる。

調査は2004年1月22日から1区の重機掘削を開始した。4月28日に2区を埋め戻し、5月7日に調査に伴う付帯施設を撤去した。

2 . 周辺の調査

今回の調査区に比較的近い調査事例の成果を概述しておく。

北側に隣接する調査には、11次調査がある。古墳時代の溝・土壌、平安時代から中世の湿地状遺構、江戸時代から明治時代の溝・土壌などを検出している¹⁾。また、現在の西高瀬川の北には、9次調査の2・3区がある²⁾。比較的遺構密度が薄く、中・近世の耕作に伴う溝などが中心である。出土遺物は、鎌倉時代から江戸時代のものを主体に弥生時代、古墳時代、平安時代のものを少量含んでいる。

南側に隣接する調査には、8次調査の1区がある。平安時代前期の三条大路北側溝・路面・建物跡、近世末から近代の瓦窯（だるま窯）などを検出している³⁾。また、三条通の南には、7次調

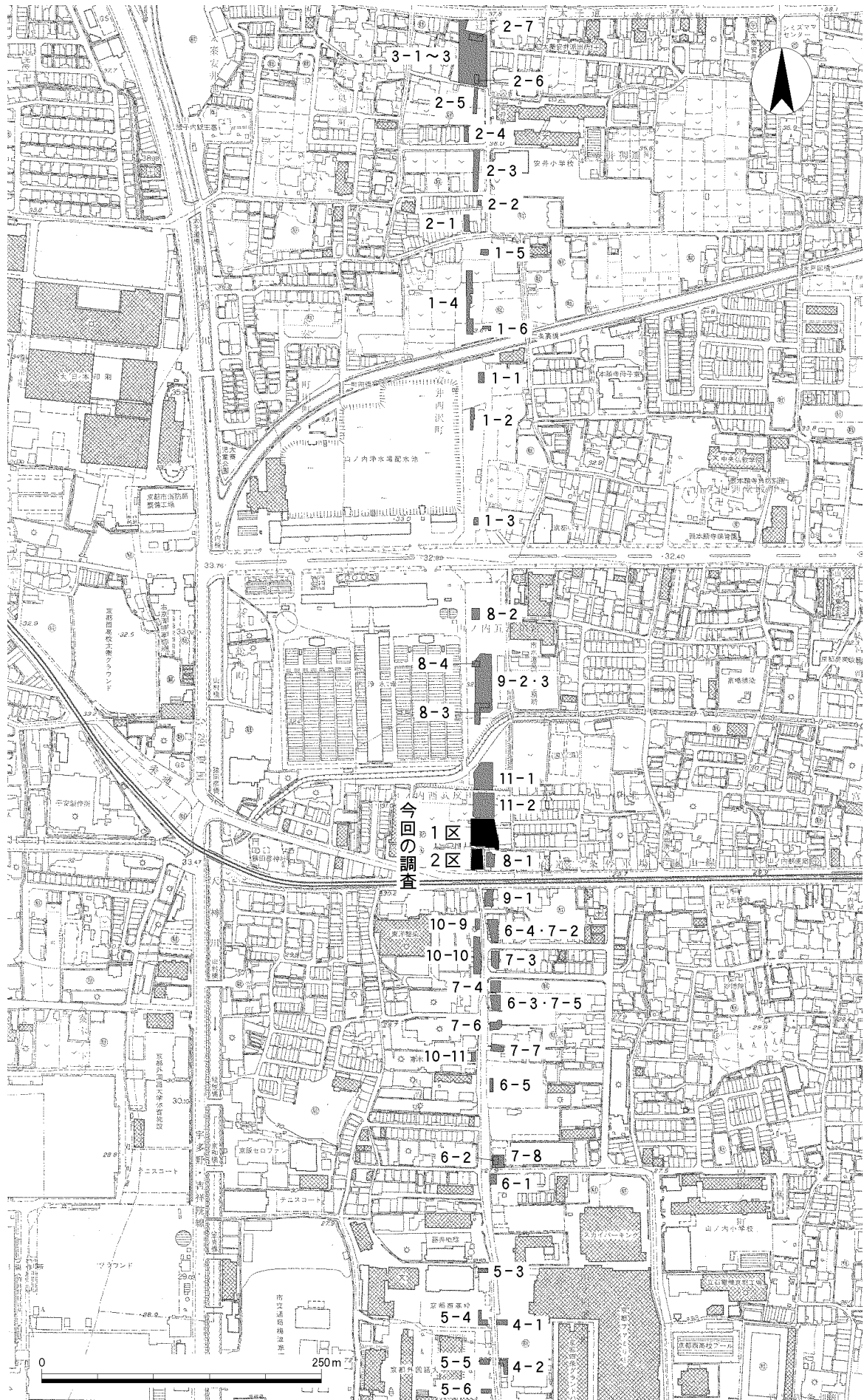


図2 調査位置図および周辺調査 (1 : 5,000)

表1 周辺の調査一覧表

調査区	年度	調査地	発着	主な遺構	
1次	1-1	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然遺跡、壺町～江戸の耕作層
	1-2	1988	試掘	右京三条四坊十六町、御小橋	平安の御小橋東四坊西側、壺町～江戸の耕作層
	1-3	1988	試掘	右京三条四坊十五町	壺町～江戸の耕作層
	1-4	1988	試掘	右京三条四坊十六町、二条大路	古墳の自然遺跡、平安の二条大路遺跡、壺町～江戸の耕作層
	1-5	1988	試掘	二条大路	古墳の自然遺跡、壺町～江戸の耕作層
	1-6	1988	試掘	右京三条四坊十六町	古墳の自然遺跡、壺町～江戸の耕作層
2次	2-1	1988	発掘	右京二条四坊十三町、二条大路	壺町～江戸の耕作層
	2-2	1988	発掘	右京二条四坊十三町	壺町～江戸の耕作層
	2-3	1988	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、壺町～江戸の耕作層
	2-4	1988	発掘	右京二条四坊十三町	平安以前の足跡状遺構、壺町～江戸の耕作層
	2-5	1988	発掘	右京二条四坊十三町、浄土小路	平安以前の足跡状遺構、鎌倉の浄土小路遺構、壺町～江戸の耕作層
	2-6	1988	発掘	右京二条四坊十四町、浄土小路	平安前～中世の浄土小路北側、柱穴、平安末期～鎌倉の土層状遺構、壺町～江戸の耕作層
	2-7	1988	発掘	右京二条四坊十四町	古墳の土層状遺構、平安以前の足跡状遺構、壺町～江戸の耕作層
3次	3-1 ～3	1991	発掘	右京二条四坊十四町、浄土小路	平安前期の浄土小路北側、平安前期の柱穴群・土層、壺町の耕作層、江戸以前の溝・井戸・土層・柱穴
4次	4-1	1998	試掘	右京四坊西条十三町、御小橋・ 御小橋交差点南内	壺町後半の溝、壺町以降の溝跡、江戸以降の耕作層
	4-2	1998	試掘	右京四坊西条十三町、御小橋	4-1と同じ
5次	5-3	1998	試掘	右京四坊西条十四町	古墳～壺町後半の遺跡、壺町後半の本田、江戸以降の本田
	5-4	1998	試掘	右京四坊西条十三町・十四町、 御小橋	古墳～壺町後半の遺跡、江戸以降の本田
	5-5	1998	試掘	右京四坊西条十三町	壺町後半の土層、江戸以降の本田
	5-6	1998	試掘	右京四坊西条十三町	平安前期包合層、壺町後半の土層、江戸以降の土層・本田
6次	6-1	2000	試掘	右京四坊西条十四町	障層不明の遺跡
	6-2	2000	試掘	右京四坊西条十五町、御小橋・ 御小橋門小橋交差点南内	古墳の遺跡、平安前期の包合層
	6-3	2000	試掘	右京四坊西条十六町、御小橋	平安前期の御小橋西側遺跡・土層、壺町～江戸の耕作層
	6-4	2000	試掘	右京四坊西条十六町、御小橋	平安の土層、江戸以降の耕作層
	6-5	2000	試掘	右京四坊西条十五町	平安の土層を含む遺跡伏地層
7次	7-2	2001	発掘	右京四坊西条十六町、御小橋	古墳前期の包合層、平安前期の御小橋西側遺跡・土層・土層
	7-3	2001	発掘	右京四坊西条十六町、御小橋	古墳前期の包合層・水層状遺構、平安前期の南北溝・障層状遺構、 近世以降の耕作層
	7-4	2001	発掘	右京四坊西条十六町、御小橋	平安前期の南北溝、近世以降の耕作層・南北方向溝
	7-5	2001	発掘	右京四坊西条十六町、御小橋	古墳前期の包合層、平安前期の南北溝・遺跡跡2棟・南北方向溝、 近世以降の溝・耕作層
	7-6	2001	発掘	大角小路・御小橋交差点南内	近世～現代の溝・障層
	7-7	2001	発掘	右京四坊西条十五町、御小橋	平安前期の不整土層、近世以降の耕作層
	7-8	2001	発掘	右京四坊西条十五町、御小橋・ 御小橋門小橋交差点南内	古墳前期～中世以降の自然遺跡、平安前期の包合層
	7-9	2001	発掘	右京三条四坊十三町、二条大路	古墳前期の不整遺構、平安の三条大路北側遺跡・障層・遺跡跡1棟・ 不明遺構、壺町の東西溝、近世～現代の穴る家産
8次	8-2	2001	試掘	右京三条四坊十四町、御小橋	鎌倉～壺町の耕作層、壺町の小穴
	8-3	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の包合層、鎌倉～壺町の耕作層
	8-4	2001	試掘	右京三条四坊十四町	平安の溝・柱穴、鎌倉～壺町の耕作層
	8-1	2002	発掘	右京四坊西条十六町	平安の土層・柱穴、近世以降の土層り穴
9次	9-2 ・3	2003	発掘	右京三条四坊十四町	平安の柱穴、鎌倉～近世以降の耕作層多敷
	10-9	2004	発掘	右京四坊西条十六町	近世～現代の土層り穴
10次	10-10	2002	発掘	右京四坊西条十六町	家産の土層・柱穴、古墳の壺穴住居、平安の溝・柱穴、中・近世の土層・溝
	10-11	2003	発掘	右京四坊西条十五町	江戸以降の溝・小穴
11次	11-1	2003	発掘	右京三条四坊十三町	古墳の溝、平安～中世の遺跡状遺構、江戸～障層の溝・土層
	11-2	2003	発掘	右京三条四坊十三町	古墳の溝・土層、平安～中世の遺跡状遺構、江戸～障層の溝・土層

査、9次調査の1区、10次調査などがある。そのうち10次調査の10区では古墳時代中期の竪穴住居跡をはじめ、弥生時代の遺構・遺物を検出しており、山ノ内遺跡の範囲外にも遺跡が広く展開していることを確認した。⁴⁾

3. 遺 構

(1) 1区(図3～5、図版1・2)

基本層序は表土下約30cmまで盛土で、以下に約50cm程度の2層からなる近世末期以降の耕土があり、以下は黄褐色粘土層の地山となる。ただし、調査区南西の一部に平安時代前期以降と推定できる薄い包含層が残存している。各時代の遺構はいずれも耕作土直下で地山を切り込んで検出した。検出した遺構は平安時代前期の建物(建物1)、柵列(柵3)、溝、平安時代末期から鎌倉時代以降と推定される建物(建物2)、江戸時代末期から近代初頭の耕作溝、明治時代の瓦窯2基(だるま窯)とそれに伴う瓦溜と土取穴である。

平安時代前期(図4)

建物1(図6)は、調査区の南東部で検出した。検出できた柱穴は2基で(柱穴42・43)、柱穴42の掘形は縦約90cm、横約60cmの隅丸長方形で、深さ約50cm、柱径は約27cmである。柱穴43は攪乱のため、掘形の一部を検出したにとどまる。縦約80cm、横30cm以上、深さ約50cmである。柱当たりは検出していない。埋土はどちらも黄橙色の地山粘土ブロックを含む、明黄褐色泥土である。この柱穴は1区に南接する既調査(8次調査1区)で検出されている柱穴(柱穴12・15)と同一の建物になると考えられ、今回の調査結果と照らして、柱間を7尺等間と推定すると南北5間(10.7m)、東西2間(4.2m)の南北棟に復元できる(図14)。

柵3(図6)は、建物1の東側で並行して検出した。検出した柱穴は2基で(柱穴50・51)、途中攪乱されるが柱間は7尺(約2.1m)に復元できる。前述の8次調査の柱穴32に続くとして推定できる。

溝52(図6)は、建物1と柵3の東側に並行する南北溝である。検出幅は1～1.1mで深さは約

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 区	2 区
平安時代前期	建物1、柵3、溝52(無造小路西側溝)	溝18(三条大路北側溝)
平安時代～鎌倉時代	建物2	
江戸時代前期		井戸15、瓦溜21
江戸時代末～明治時代	瓦窯1・2(だるま窯)、井戸2、溝5、瓦溜	井戸2、溝14、瓦溜

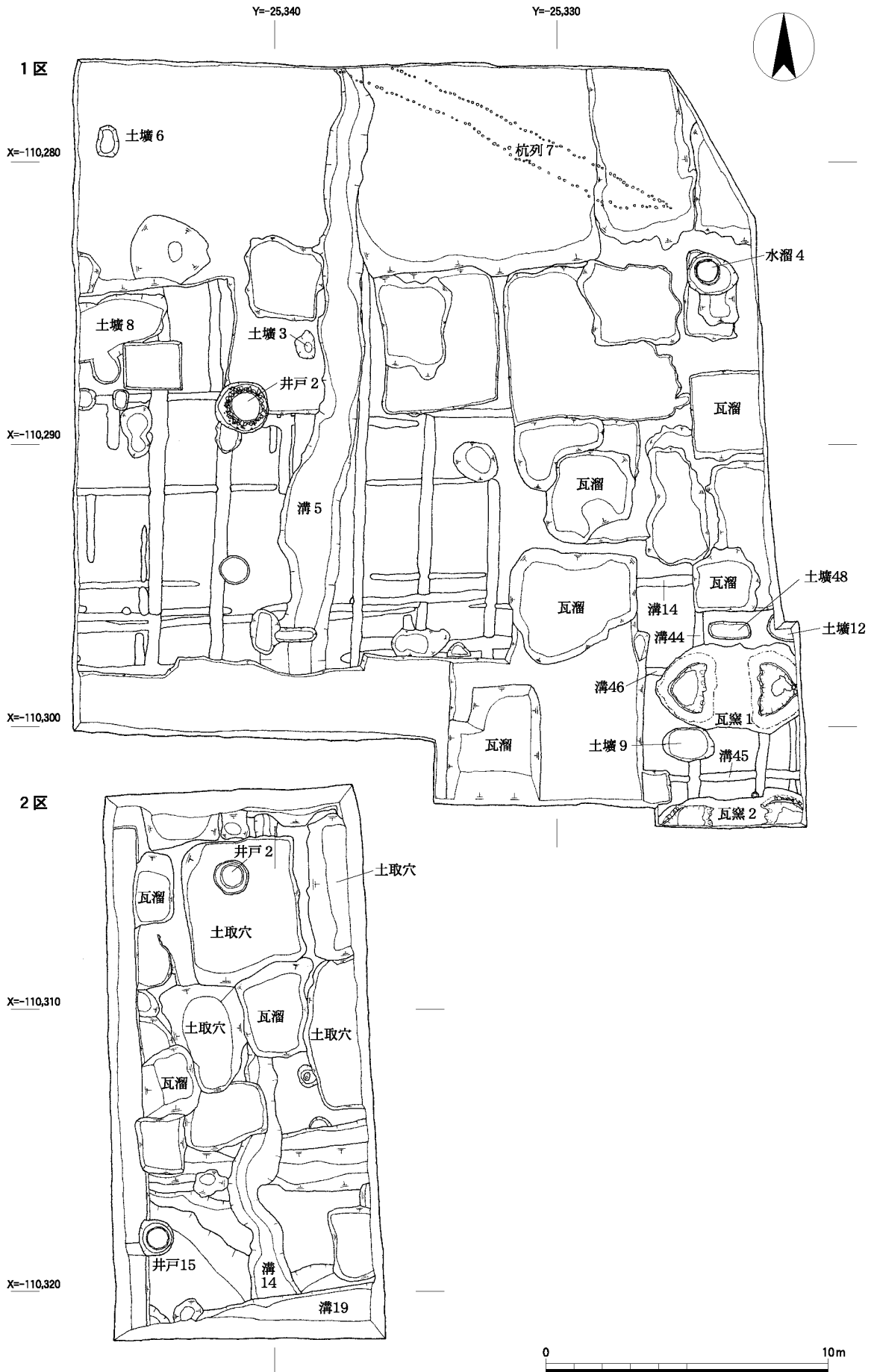


图3 1·2区第1面遺構平面图(1:200)

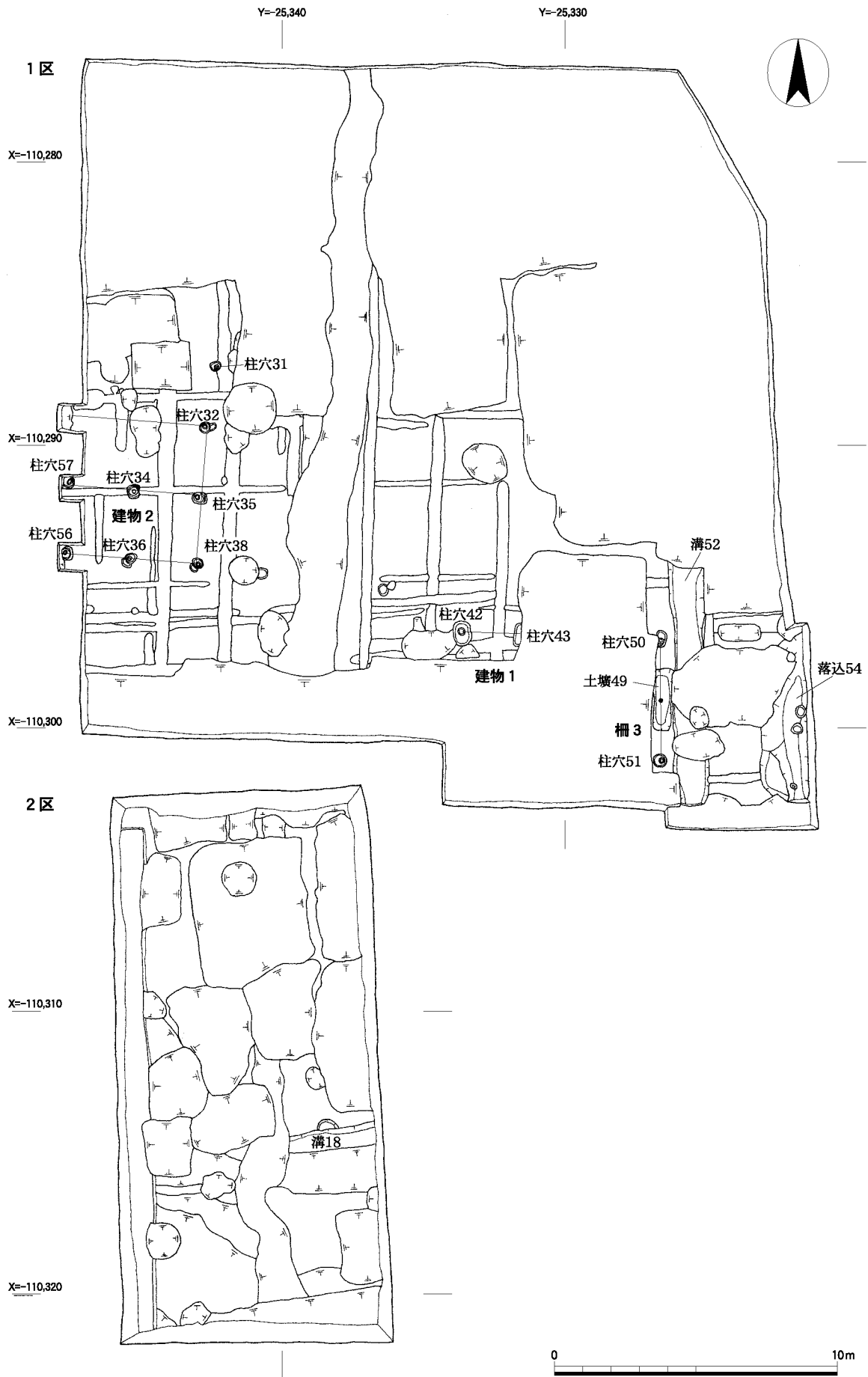


图4 1·2区第2面遺構平面図(1:200)

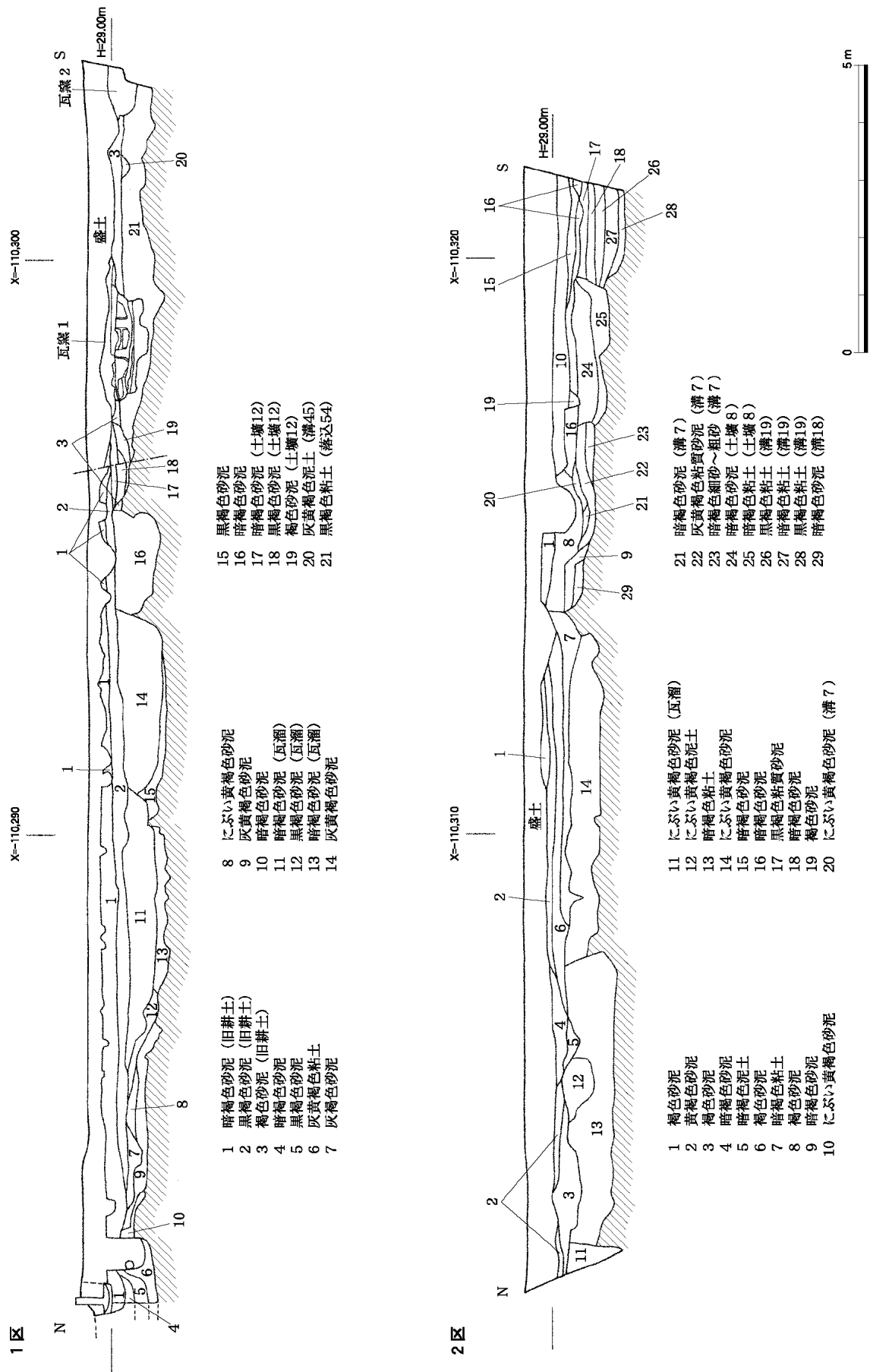


図5 1・2区東壁断面図(1:100)

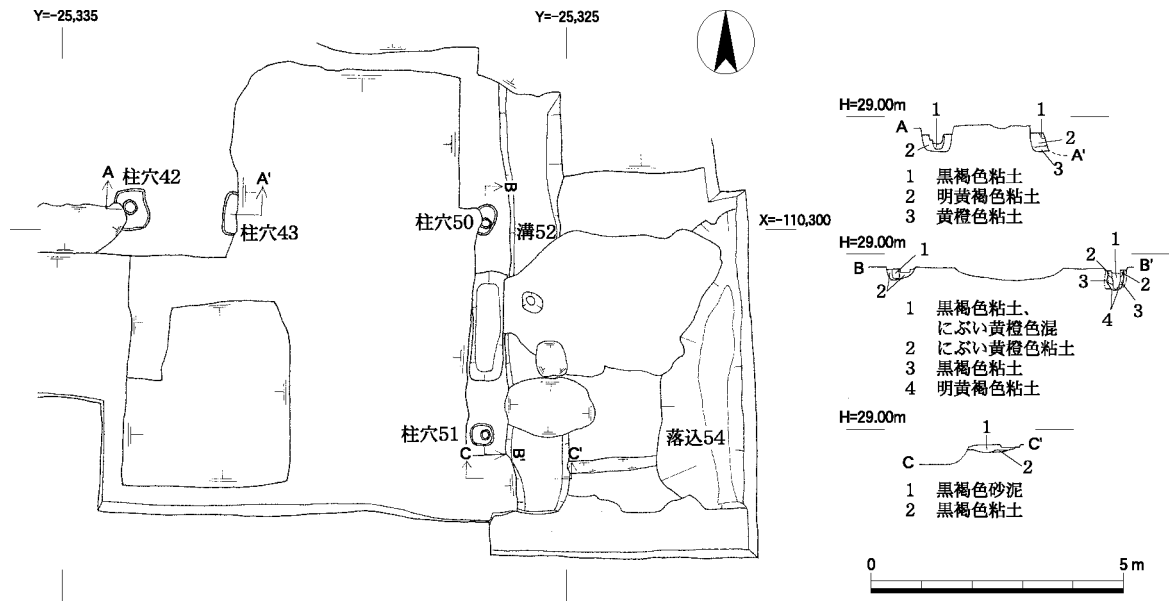


図6 1区平安時代前期遺構実測図(1:150)

10cmである。平安時代前期の土師器椀が出土している。無差小路築地心推定ラインとの位置関係から、溝52は無差小路の西側溝、柵3は宅地との区画施設である可能性が高い。

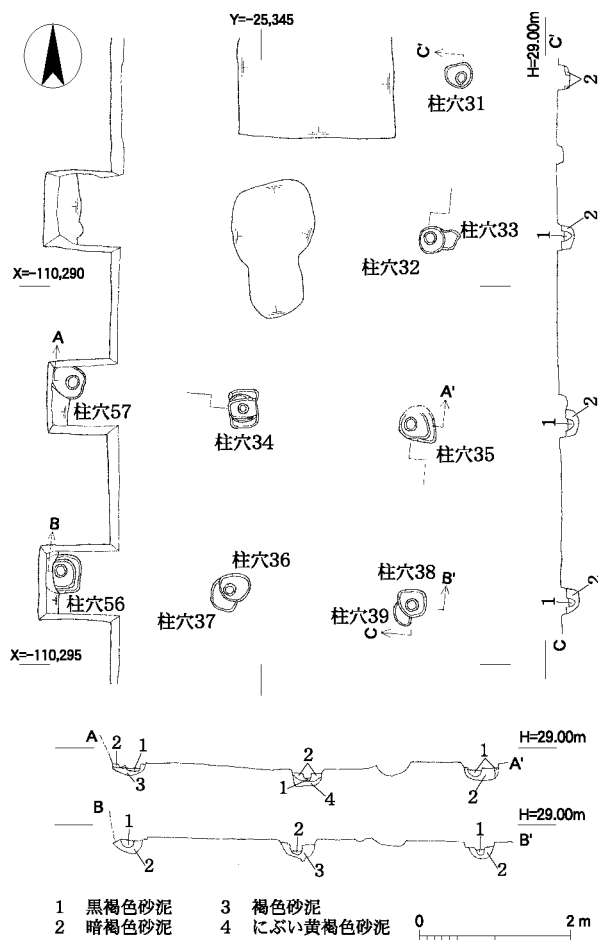


図7 1区建物2実測図(1:100)

平安時代末期から鎌倉時代(図4)

建物2(図7)は、調査区の南西部で検出した。南北2間(4.9m)、東西2間(4.8m)以上の建物である(柱穴32~38・56・57)。柱掘形は40~50cmの隅丸方形で、深さは約10cm程度である。それぞれの柱穴は重複しており、同じ位置で建て替えがあったものと考えられる。出土遺物が極端に少なく時期を決定しがたいが、層位や柱穴の形状などから12世紀後半以降と推定する。

江戸時代(図3)

調査区の中央部を南北に縦断する溝5、耕作に伴う南北、および東西方向の溝などがある。そのうち溝5は11次調査でも検出しており、幅1.2~1.5、深さ約50cmを測る。埋土は上層が黒褐色泥土、下層が黒褐色砂泥で2~5cmの小礫を多量に混入する。江戸時代末期もしくは明治時代初期の京・信楽系陶器類が出土しており、耕作に伴う用・排水路である。

明治時代（図3）

調査区の南東部で瓦窯（だるま窯）2基を検出した（図8）。また、瓦窯に伴う土取穴と瓦溜を調査区南側と東側に連続して検出した。瓦窯の規模は、ほぼ全体形を検出した1号窯で、全長約5.4m、幅約2.9mに復元できる。基底部のみの検出で上部構造などは残存していないが、東西の焚口および燃烧室、燃烧室と烧成室間の4本の畔痕跡などは明瞭に確認できた。窯の規模と形状から明治時代に構築されたもの推定する⁵⁾。瓦以外の出土遺物として、2号窯の焚口埋土から日清戦争（1894～95年）の戦勝記念と推定できる染付椀があり、窯の操業年代もその頃と考えられる。

（2）2区（図3～5、図版2）

基本層序は約50cmの盛土および整地層があり、その下層に棧瓦を含む整地層と部分的に耕土が約20cm堆積する。以下は地山である。

平安時代の溝や近世および近代の瓦溜、土取穴もこの地山層を切り込んで掘り込まれている。近世・近代の大型土壌でそれ以前の遺構はほとんど残存していないが、平安時代前期と推定できる溝を検出した。溝の中央部から南側は削平されており、その規模などは不明である。その他の遺構として、19世紀中頃の井戸、11次調査区と12次調査1区から連続する江戸時代末期から明治時代以降の耕作に伴う用・排水路などがある。

平安時代前期（図4）

溝18は調査区中央部の東壁付近で検出した。溝の南肩は近代の排水溝で削平され規模は不明であるが、長さ約3.0m、幅約70cmの範囲で残存していた。深さは約20cmである。土師器の小片以外に出土遺物が無く詳細な時期は不明であるが、暗褐色砂泥の埋土や層位などから平安時代前期と推定できる。検出位置は三条大路北築地心の推定ラインから約4.0m南で、やや離れているが三条大路北側溝である可能性が高い。

江戸時代後期（図3）

瓦溜21は調査区中央部西寄りで検出した。南北約2.8、東西2.0以上、深さ約1.5の方形土壌である。埋土はほとんど瓦と炭で占められている。瓦以外の出土遺物から18世紀後半のものである。井戸15は調査区南西部で検出した瓦積みの井戸である。掘形は約1.2mの円形で、井戸枠は

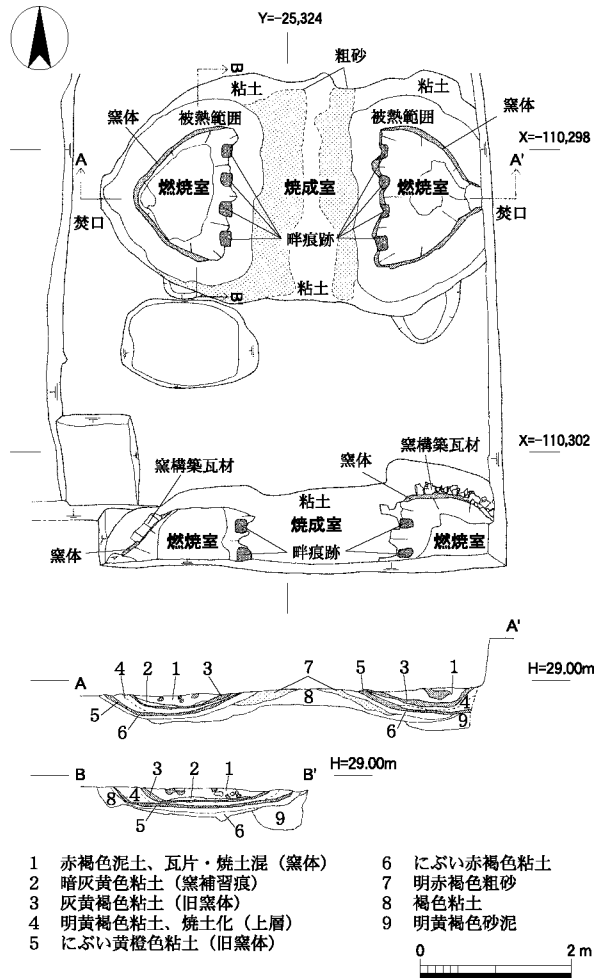


図8 1区瓦窯実測図（1：100）

- | | |
|--------------------|------------|
| 1 赤褐色泥土、瓦片・焼土混（窯体） | 6 にぶい赤褐色粘土 |
| 2 暗灰黄色粘土（窯補習痕） | 7 明赤褐色粗砂 |
| 3 灰黄褐色粘土（旧窯体） | 8 褐色粘土 |
| 4 明黄褐色粘土、焼土化（上層） | 9 明黄褐色砂泥 |
| 5 にぶい黄橙色粘土（旧窯体） | |

幅約24cmの井戸瓦10枚を1段に組んであり内法は約75cmである。井戸枠内より19世紀前半の京・信楽系の陶器や美濃・瀬戸系の染付磁器が出土している。

江戸時代末期から明治時代（図3）

溝14は調査区の中央部を南北に縦断する溝で、1区および北に隣接する11次調査区から連続する用・排水路である。幅約1.5m、深さ約40cmで、南は後述する三条通北側溝に連がる。溝19は調査区南端で検出した東西溝である。北肩部のみの検出で規模は不明であるが、調査区南壁の断面では深さ約50cmある。19世紀中頃以降の陶磁器が少量出土している。現在の三条通北側に接する位置であることから、近世末期から明治時代にかけての側溝と考えられる。

近代の遺構としては、この他に瓦窯に関連する土取穴と瓦溜が調査区北半部分に集中している。この土壌群が結果的にそれ以前の遺構を壊したものと考えられる。

4. 遺物

遺物は1区・2区合わせて整理箱に27箱出土した。内、木製品が1箱ある。

(1) 1区（図9・10、図版3）

縄文時代の石器類から明治時代の遺物まで幅広く出土した。出土遺物の大半は近代の瓦窯に伴う瓦溜の瓦類と窯体片である。土器・陶磁器類には平安時代前期の椀・皿類、江戸時代後半以降の陶磁器類などがある。

縄文時代（図9）

チャート製の柳葉状の尖頭器（1）、サヌカイト製の剥片2点（2・3）の石器が出土している。そのうち、尖頭器は長軸13.4cm、短軸3.0cm、厚さ8.5mmでほぼ完形である。その製作技法・形態からみて旧石器時代末から縄文時代草創期・早期のものと考えられる。ただ、剥片も含めて遺構

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
縄文時代	石器		尖頭器1点、剥片2点		
平安時代前期	土師器・須恵器・瀬戸陶器・灰輪陶器・瓦		土師器2点		
平安時代末期 ～鎌倉時代	土師器・須恵器・輸入磁器・焼酎陶器				
江戸時代後期	土師器・瓦質土器・土製品・焼酎陶器・磁器・施釉陶器・漆器		瓦質土器1点・土師質土器1点・漆器1点		
明治時代	施釉陶器・土製品・瓦類・窯体片・窯道具・木製品		瓦類17点・窯体片1点・窯道具4点・染付1点・木札1点		
計		27箱	22点（4箱）	4箱	19箱

出土遺物ではなく、近世末期以降の耕土層からの遊離資料である。京都市域の同様の石器は、山科の中臣遺跡⁶⁾、右京区西院平町出土例などが知られている。

平安時代（図10）

溝52から前期の土師器椀（4・5）が出土している。柱穴50、土壙54からも土師器、須恵器を検出しているが小片のため図示できなかった。また調査区西南部の建物2の柱穴周辺から、平安時代末から鎌倉時代にかけてと思われる輸入青磁・白磁類の小片が出土している。

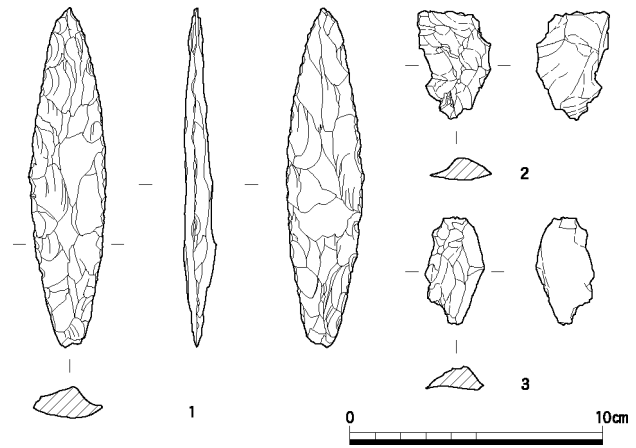


図9 石器実測図（1：3）

江戸時代後半から明治時代（図版3）

井戸2、水溜4から19世紀半ば以降の陶磁器類が出土した。肥前磁器、美濃・瀬戸系磁器や京・信楽系の施釉陶器類などいずれも19世紀中頃以降のものである。そのなかで水溜4の埋土から、明治8年の墨書紀年銘がある木札（6）が出土している。表に「京都府改（焼印）／牛肉商免許／明治八年十一月改」、裏に「第四拾壹号／葛野郡管區／山之内村／上田嘉吉」と書かれている。瓦窯操業に伴う瓦溜から、大量の棧瓦類、道具瓦類が窯本体の破片と混在して出土している。また、瓦窯2の燃焼室埋土上層からは、日清戦争の戦記を書いた染付椀（7）が出土しており瓦窯操業時期を推定しうる資料として注目できる。

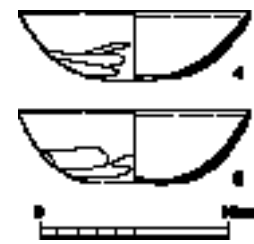


図10 1区溝52出土土師器実測図（1：4）

（2）2区（図11、図版3）

土取穴や瓦溜から、瓦類が多量に出土した。また、少量ながら平安時代から江戸時代の土器・陶磁器類も含まれている。

ただ、近世・近代のものを除いて2次堆積の遺物であり、いずれも小片である。

江戸時代（図11）

瓦溜や井戸15から18世紀後半から19世紀前半代の陶磁器が少量出土している。美濃・瀬戸系磁器や京・信楽系の陶器などである。また瓦溜21からは、「明和・・・／二月十二日／工人／次・・・」



図11 2区瓦溜21出土土器・漆器実測図（1：4）

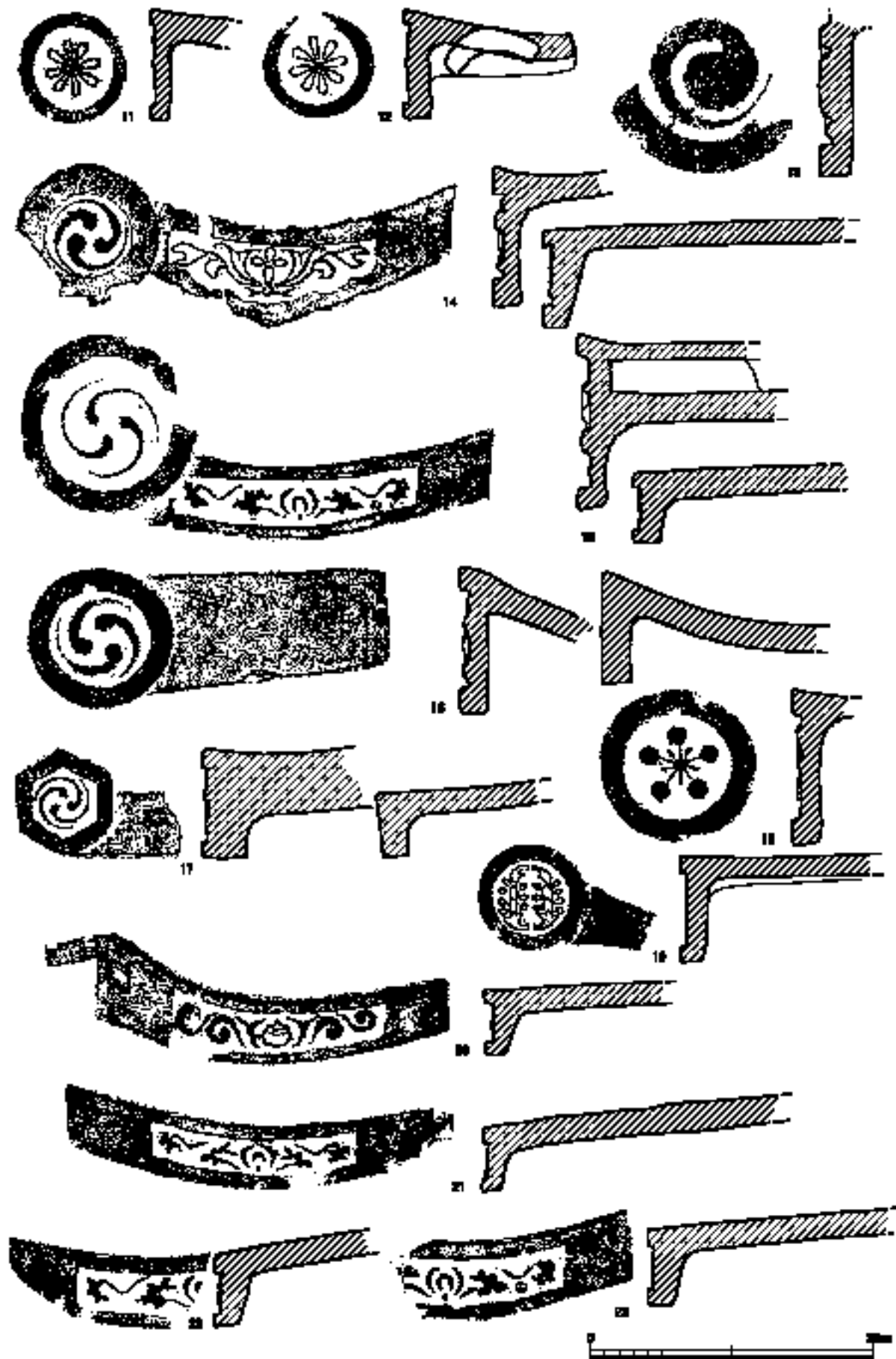


图12 1·2区瓦溜出土瓦類実測図(1:4)

の紀年銘のある瓦質火入（8）漆椀の蓋（9）や土師質土器（10）などが出土した。

18世紀後半から19世紀にかけてのもので、検出した瓦溜では最も古い年代のものである。

（3）1・2区瓦溜（図12・13、図版4・5）

図12・13は1・2区瓦溜から出土した瓦・道具瓦類と窯道具類である。

図12の（11・12）は単弁8葉菊花文の小型丸瓦当で、いわゆる「小丸瓦」である。（13）は一つ巴文の軒丸瓦である。（14～19）は軒棧瓦で、14は平瓦部を滴水風に作る。15は三つ巴の丸瓦部と均整雲形唐草文の平瓦部をもつ大型のものである。16は平瓦部に文様をもたないもので、螭羽瓦と推定される。18・19は丸瓦の文様がそれぞれ梅花と抱茗荷の家紋で注文品であろう。（20）は丸瓦部をもたない棧瓦で、宝珠の中心飾と均整唐草文である。（21～23）は均整雲形唐草文の

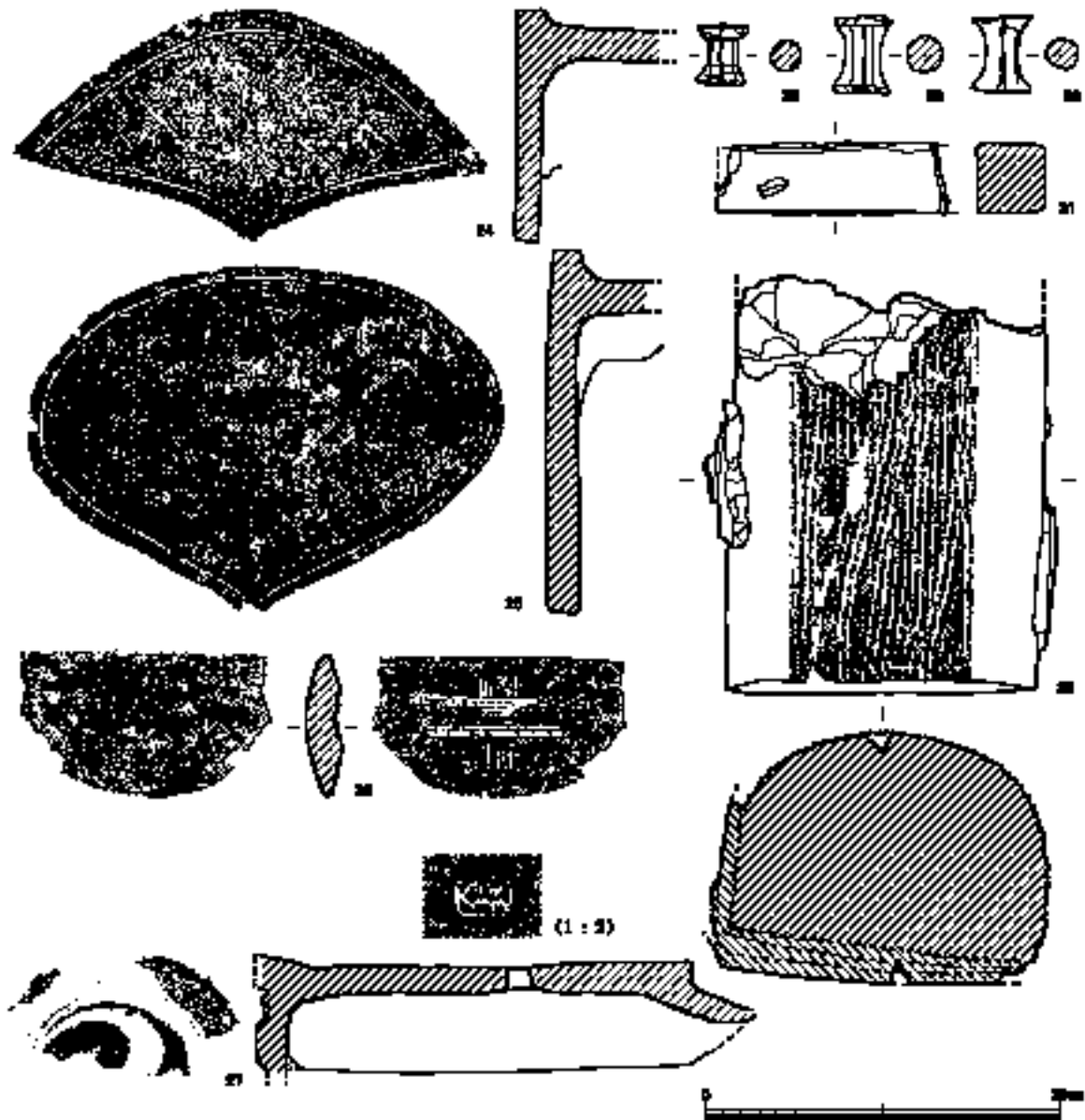


図13 1・2区瓦溜出土瓦・窯道具類実測図（1：4）

平瓦で、22は周縁部、23は瓦当文様内に丸に十の刻印が押されている。

図13の(24・25)は棟先瓦で、25は宝珠もしくは宝袋状のヘラ描きがある。(26)は面戸瓦で、裏面にクシによるアラシを付ける。(27)は巴文の軒丸瓦で、隅丸長方形枠内に 長の刻印が上面に押されている。(28～31)は窯道具である。つづみ型トチンと方形柱状の重ね台で、いずれも瓦質である。(32)は畔柱の基底部と推定され、底部を除き強く火を受けている。

5.まとめ

調査区は平安京右京三条四坊十三町にあたり、1区の東側は無差小路に接している。2区は三条大路を含んでいる。また、隣接する既調査(8次調査)では、平安時代前期の三条大路北側溝と建物跡を検出しており、今回の調査で全容が解明できると期待した。調査の結果、平安時代の遺構は明治時代に操業されていた瓦窯に関連する土取穴と瓦溜で大半は壊されていた。しかし、1区で8次調査で報告されていた柱穴につながる柱穴を検出し、2間×5間の建物に復元できた。また、1区では無差小路の西側溝、2区では三条大路の北側溝と推定できる溝を部分的ではあるが検出した。

今回の調査では、周辺の調査で確認されている弥生・古墳時代の遺構・遺物などは確認できなかったが、縄文時代に遡る尖頭器や剥片の石器が出土したことは、調査区周辺に従前より周知されていた弥生時代の遺跡だけでなく、縄文時代の遺跡がある可能性を強く示唆するものである。

また、瓦窯2基を検出したことは、出土した瓦(図12・13)と併せて近世から近代にかけての瓦産業の解明につながると思われる。山之内村の瓦生産は安政元年(1854)の町触に「西組散在瓦師」の一つとして「山之内村 長兵衛」の名がある⁸⁾。この瓦師の銘は京都御苑内公家町遺跡の19世紀代の井戸椀瓦に出土例があり、今回出土した軒椀瓦のうち、(21)が同じ公家町遺跡の三条転法輪邸跡から出土した軒椀瓦と同範である可能性が高い¹⁰⁾。刻印銘が従来知られていた「山之内 長兵衛」ではなく「長」(27)であるが、2区で検出した瓦溜21が18世紀後半代であり、山之内村での瓦生産が、江戸時代後半頃から明治時代にかけて、長く行われていたことが明らかになった。

註

- 1) 能芝 勉・モンペティ恭代「平安京右京三条四坊十三町跡」京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-15 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 2) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京三条四坊十四町・四条四坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-3 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 3) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京三条四坊十三・十四町、四条四坊十五・十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-11 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 4) 伊藤 潔・近藤章子『平安京右京四坊十五・十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-4 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2003年

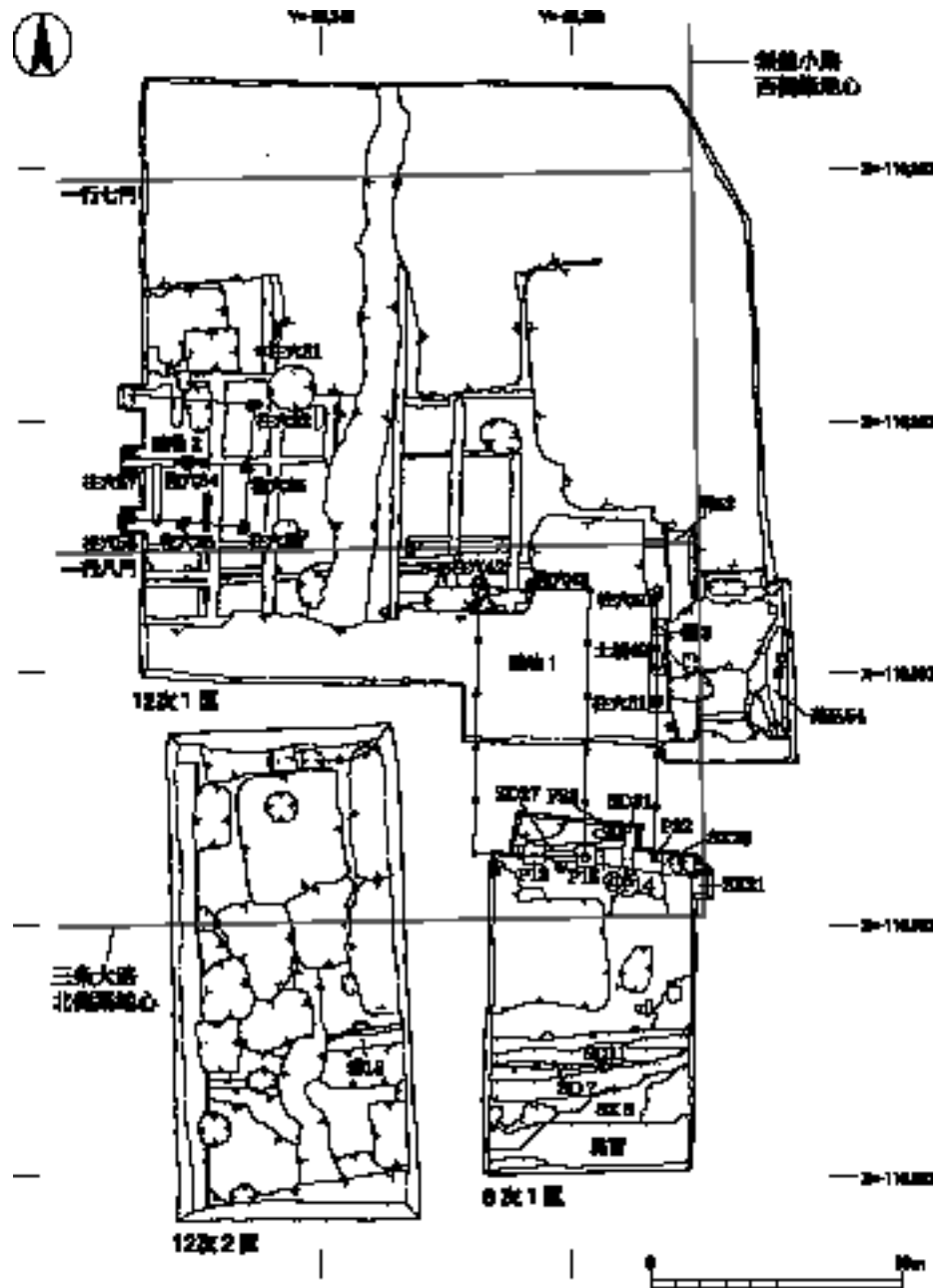


図14 平安時代前期遺構復元図（1：300）

- 5) だるま窯の構造については吹田市立博物館の藤原 学氏に御教示いただいた。
- 6) 『史料京都の歴史 第2巻考古』 平凡社 1983年
- 7) 「主要な出土遺物」『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』 京都市文化観光局 1990年
- 8) 杉本 宏「棧瓦の成立過程と京瓦師の動向」『関西近世考古学研究』 関西近世考古学研究会 2003年
- 9) 図版568の17・18 『平安京左京北辺四坊-第2分冊-』 京都市埋蔵文化財研究所調査報告第22冊 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2004年
- 10) 平瓦当中心飾の宝珠横にある範キズなどから、同範のものと推定できる（図557の22～29 『平安京左京北辺四坊-第2分冊-』 前掲）。

圖 版

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうしぼうじゅうさんちょうあと							
書名	平安京右京三条四坊十三町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2004-1							
編著者名	能芝 勉・モンペテイ恭代							
編集機関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2004年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょううきょう 平安京右京 さんじょうしぼう 三条四坊 じゅうさんちょうあと 十三町跡	きょうとうしゅうきょうく 京都市右京区 やまのうちにしはったん 山ノ内西八反 だちょう 田町	26100		35度 00分 20秒	135度 43分 21秒	2004年1月 22日～2004 年5月7日	約775m ²	道路改築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
平安京右京 三条四坊 十三町跡	都城跡	縄文時代		尖頭器、剥片				
		平安時代前期	掘立柱建物、柵、 三条大路北側溝、 無差小路西側溝	土師器、須恵器、緑釉 陶器、灰釉陶器、瓦類	三条大路北側溝、 無差小路西側溝、 掘立柱建物の確認。			
		平安時代～ 鎌倉時代	掘立柱建物	土師器、須恵器、焼締 陶器、輸入陶磁器				
		江戸時代～ 明治時代	耕作溝、土壇、井 戸、瓦窯、瓦溜	土師器、瓦質土器、焼 締陶器、施釉陶器、染 付磁器、土製品、瓦類、 窯道具、漆器、木製品	近世末～近代の瓦 窯（だるま窯）の 構造が確認された。			

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2004-1
平安京右京三条四坊十三町跡

発行日 2004年6月30日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 075-256-0961